

災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練を実施

阪神・淡路大震災から22年目を迎えた1月17日、ぶらざこむ

1では、ボランティア活動者を対象とした災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練を実施しました。

今回の訓練目標は「災害ボランティアの流れを知る」としましたが、その前に基本的なことから順に追って。

なぜ社協のボランティアセンターを立ち上げるの？

社協は、地域を基盤に住民参加によって地域福祉を日常的に推進している組織体だから。また、災害ボランティアには閉じる時がきます。そうなっても社協ボランティアの本来活動として住民と共に復興に向けて連携することができるという強みをもっているからです。

災害ボランティアの運営担い手は社協職員ではないの？

社協ボランティアの職員は3名。他部署からの応援があったとしても、宝塚に大規模災害が起こったときには、皆被災者となる可能性もあり、マンパワーは絶対的に不足します。災害ボランティアの運営スタッフは、全国から駆けつけて来てくださったボランティアです。それが今の潮流。でも、災害ボランティア運営の要となるポジションはできる限り宝塚のボランティアメンバーで担いたいと考えています。

災害ボランティアってどんなことをするの？

被災者ニーズへの対応、ボランティア募集、資機材の管理、被害状況の把握、広報活動、管理業務などなど多岐にわたっています。

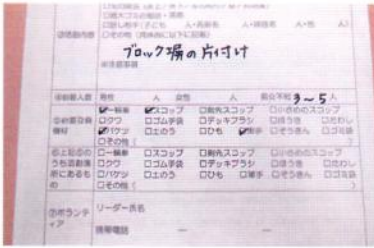
今回の訓練では

ボランティアの受付↓ボランティアコーディネート↓活動への送り出し↓活動報告の聞き取りという一連の流れを、参加者が全員が理解することを目指し、交代で役割を演じ、周りは観客というようなり方をしました。

実際にやってみて

参加者は30名。全員が災害ボランティアの流れについて「大体分かった」との感想をもたれました。次の訓練にはもっとこうしてみようという改善点についての意欲をみせてくださっています。

今回は時間も短く、小規模な訓練となりましたが、次はぶらざこむ1の施設全体を使つての本格的な訓練を6月18日に行う予定です。(荒木)



「活動指示書」これに基づいて活動します。



活動者の受付。ボランティア保険加入は必須です。



個別オリエンテーション。活動先の情報をしっかりつかみます。



必要機材を持って活動先に出発！

Close-up

会食ボランティア「喜久の会」

「喜久の会」は高齢者の方々に季節の食材を活かした食事をつくり、みんなで食卓を囲むことで高齢者の食生活向上のお手伝いを目指しています。手間を惜しまず作ったお食事は、こころも身体もほっこり温めてくれます。にぎやかな食卓では、お箸もおしゃべりもすすみ、みなさんの笑顔の花も満開です。

活動を始めて30年数年、お出汁をとった昆布や鰹節も無駄にしない「もったいない精神」は、流行のエコクッキングの先駆けかも…。料理好きなメンバーからは次々とアイデアが湧き出てきます。

「みなさんの“美味しい”が励みです。40周年めざして、これからも元気に楽しく頑張っていくます。」と笑顔で話してくださいました。



12月8日、ぶらざこむ1会食会の献立
お野菜もタップリで健康的です♪



1月6日、福祉センター会食会の献立
おまんじゅうも手作りです♪



たくさん盛りつけもテキパキ。息もピッタリ♪



煮物の味つけもお手の物♪



料理大好きなメンバーばかりです♪
※メンバーも募集しています(見学も歓迎)

※会食会の参加者募集中です。お一人でも気軽に参加できます。お友達やご夫婦一緒のご参加も♪
※お問い合わせはボランティア活動センターまで

〈会食会〉
第1 金曜日 総合福祉センター
第2 木曜日 ぶらざこむ1